

県議会議員の松岡徹です。

2012年9月22日

いま国交省がスピード感を持って全力で取り組むべきことは、7月12日の大雨で被害にあったところの堤防をつくり、浚渫・掘削をし、水害を起こさないよう整備することです。

甚大な被害をもたらした「7・12熊本広域大水害」は、「過去に経験したことのなような大雨」「1000年に一度の豪雨」と指摘される大雨でした。

同時に、白川があふれた被害現場を調査すると、「熊日」も、「氾濫、堤防ない区間から」と書いているように、堤防がないところからの氾濫であり、白川改修の遅れが原因であることは明らかです。

国交省は来年雨期に、今年の7月12日規模の大雨が降っても、洪水被害を出さないことをめざして、地域ごとの具体的な計画、段取りを急いで進めるべきです。川幅より33メートルも狭い明午橋の架け替えは急がないと大変なことになります。

球磨川で川辺川ダム建設が進められた時、毎年150億、110億という予算が組まれました。その一方で球磨川では河川改修が遅れ、毎年のように水害があちこちで起きました。

ダム建設にお金がつぎこまれ、河川改修が後回しにされたからです。立野ダム計画を進めれば、財政の配分上、いま急いでやるべき河川改修が遅れてしまいます。

国交省は、9月11日に開かれた第3回「検討の場」で、「立野ダムが最も有効」との見解を示しましたが、この結論は、国交省の過去の実績に照らすとまったく信用できません。

川辺川ダム建設計画では、国交省は、2日間雨量440ミリで人吉の流量は7000トンになると固執していました。ところが、440ミリ程度の雨が降っても人吉の流量は4000トンから4300トンでした。そこで突然、国交省は2日間雨量を12時間雨量に変えました。基準地点は八代と人吉でした。流量は、9000トン、7000トンでした。ところが八代9000トンでは人吉が7000トンにならないので、八代を基準地点から、突然外してしまいました。しばらくすると、またまた突然、八代を基準地点に復活させました。そして八代の流量はいつの間にか、9000トンから9900トンに代わっていました。県議会の議事録に載っていますが、私の指摘に、当時の潮谷知事も「2転3転」し、「誰が聞いても理解しがたいものだった」と述べています。

財政・コスト面でも、川辺川ダムは当初、350億円だったのが、3300億円に、10倍に膨れ上がりました。国交省は、住民討論集会で、ダムはあと630億円で済むのに、ダム以外の対策では2100億円以上かかると主張しました。ダム中止の方向が決まり、国交省が示したダム以外の治水代替案は、2100億円の5分の1の約400億円でした。これらは、国交省の立野ダムありきの結論は信用できない理由の一端です。

川辺川ダム問題では、住民討論集会を9回開き、のべ53時間、12000人が参加しました。森林保水力の検証もやりました。「球磨川・明日の川づくり報告会」は、流域で51回、熊本市、山鹿市合わせて53ヶ所で開かれました。熊本県が有識者会議を設置し8回の審議がなされました。

立野ダムは、今日から24日までの3ヶ所で終わりというのは断じて容認できません。

国交省は、情報を公開し、流域住民、県民に対する説明責任を果たすこと。そのための中・小規模の説明会を各地で開催することを求めます。

パブリックコメントでも、異論・反対が多く出ており、県民参加型の公正な討論集会

を、治水対策のあり方、コスト、安全性、環境、地域経済のテーマごと開催することを求めます。

立野ダムの安全性については、立野ダム建設予定地周辺には、崩落しやすい柱状節理が見られます。布田川・日奈久断層帯の一部である北向山断層が通っています。ダム上流の水位の上下動による地下水位の上下変動による斜面崩壊による危険があります。阿蘇の山々の深層崩壊による土石流により、大量の流木、巨大岩石、大量の泥が流れこみます。これらによって穴あきダムの放流口がつまり、満杯になり、穴あきダムの機能が失われること、そしてダム自身の危険性も心配されるところです。安全の問題が特別な検証が必要です。ダム堆砂による白川の汚濁等についての検証も必要です。